

對滿事務局長

鐵是日滿滿

右見

於

陸相

松岡

總裁

先

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

務

局

長

事

履轍の愚擧

再びアマゾン
移民を戒む

對伯日本移民が主として聖州に送られるようになつた抑もの最初は當時勞力補給に困じ果てゐた聖州側耕種主の要望に基くもので、聖州が日本移民のため最も適當してゐたとは當時の關係者間には解つてゐなかつたようである。而してその後の移民が相變らず聖州に送られたことは移民輸送機關の組織が聖州向に出来上つてしまつたことの主要因は矢張り現態様にある。移民の仕向地は聖州を第一に推し得る支けの要素を具備してゐたのに在ると解して間違はぬであらう。

從來リオ大使館筋から移民分

散論文の名北進論といふが唱

不可だ、宜しく北にも分散せしむべしといふので大使自身のアマゾン旅行など企てられ南もアマゾン産研も、また今は消えてしまつたアマ興も斯かる帝國代表の建議によつて生れたものである、現澤田大使は未だ詳にせぬが、去年移民二分法の制定されたのは日本人が聖州にばかり集つたためだと斷言した風があつた。所謂移民分散論の主旨は大局から見て一理はある、併し現代の移民は自由を拘束された奴隸ではなく況して品物ではない、従つて理不盡な制御束縛を加へることは一時的に可能でもあらうが絶対的であり得ないことが瞭かである、而して移民の自由意思の具體的表現はよりよいところに住むといふ一語を以て盡きる。すなはち北伯がよいか育成論は北も南も等しく住みよいといふ前提なくして何等こゝは移民自身が下すべきものでないといふ前提なくして何等これを強要し得る力がないのである。

吾人は強ち南進論を固執する

自分は白紙で行く

方針など今は無い

▽ 松岡滿鐵總裁車中談

【沼津廿三日發】二十三日赴任の途次松岡滿鐵總裁は車中大要左の如く語つた

着任 後第一着手は何かに

つて?私はいつも云つて通り全員白紙の立場で

行くのだから方針も何も今は

事だ、人事、事業共に南司令

官の御意見を聽く立場にある

所の御意見を聽く立場にある

が、これが今後降り坂に置かれないので、先づ現地に行つて親しく見又し會ひに場合によつては再び東京に歸つて中央の意見を訊ねた上で大

きな御意見を聽いた上で

のものであり更に根本的に見

れば大陸に於ける日本民族經

の言を致すのである。而してその可ならざるを實證され

てゐた今日猶東京においては莫大な國庫補助を得てアマゾン移民會社設立計畫の着々進捗しつゝある耳にしその余りにも無駄あるの言論懷柔の上から彼等の機嫌をなぐりつたその可ならざるを實證される

る。政治家の盛衰はこれで止まぬ

ものではないが大使館を中心と

した北伯論がその範囲で出来上

つたその可ならざるを實證され

てゐた今日猶東京においては莫大な國庫補助を得てアマゾン移民會社設立計畫の着々進捗しつゝある耳にしその余りにも無駄あるの言論懷柔の上から彼等の機嫌をなぐりつたその可ならざるを實證され



種子を播くもの

仁 雅 呂

プロローグ

C

虱の一年

木村貫一郎

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

總工費二千七百圓

伊勢神宮を中心とした大神都建設計画

森嚴、崇美の大極致

日本銀行に防空天井建築

寫眞

靴下、メリヤスシャツ、ハンカチーフ

如何なる難病も治る歴代家傳
稀代の名灸こはり

大神都建設計画

わが國民あげて尊崇し奉る伊勢神宮を中心とする莊嚴の大神都聖地の建設について内務省社局都計畫課並に地元三重縣との各關係課並に地元三重縣との各關係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

三

重

縣

と

の

各

關

係

課

並

に

地

元

州統領の周旋で邦人の來住を待つ

南大河州ミンオネスの地

先發調査員富岡漸氏歸る

海興では先ごろ南大河州の政商フレデリック・ダーネ氏の依頼を受け同氏が最近南大河州政府より譲渡されたミンオネス地方方移萬アルケルの土地に對し日本移民配給の可能性調査のため富岡漸氏を派遣せることは既報通りであるが富岡氏は月餘に亘る本調査の結果去二十五日歸聖地は南大河州の北端、ウルグワキ河を挟んで亞國ミシオネスに對し五万アルケル全土ラロツンヤの最上等、ダーネ氏は大規模な測量隊を入れて地區割し目下自動車道を開設中、既に一部にはドイツ人、イタリア人等入植してゐるが作物は堅草、アルファニア、小麦等に向き氣候溫和、雨量も適當で病氣なく文明人の移住地としては最もものであらうと因にダーネ氏は州統領フロレス將軍、大統領ゼツリオ・ダーネ氏などの親友で、該地帶に日本人を入れるべきは當然である、海興では更に就いてフロレス州統領は一例の二分制限、問題は一に懸つて如何にして新移民を送るかに在るようである、海興では更に就いてゼツリオ・ダーネ氏の意見を聽くことを約束しており從つてゼツリオ・ダーネ氏は左の摸様。

（一）サンパウロ地方委員会

（二）バウルー地方委員会

（三）原口七郎

（四）福川 薩然

（五）内田利藤次

（六）多羅留錦輔

（七）今田 求

（八）齋藤 齊

（九）同 同

（十）同 同

（十一）同 同

（十二）同 同

（十三）同 同

（十四）同 同

（十五）同 同

（十六）同 同

（十七）同 同

（十八）同 同

（十九）同 同

（二十）同 同

（二十一）同 同

（二十二）同 同

（二十三）同 同

（二十四）同 同

（二十五）同 同

（二十六）同 同

（二十七）同 同

（二十八）同 同

（二十九）同 同

（三十）同 同

（三十一）同 同

（三十二）同 同

（三十三）同 同

（三十四）同 同

（三十五）同 同

（三十六）同 同

（三十七）同 同

（三十八）同 同

（三十九）同 同

（四十）同 同

（四十一）同 同

（四十二）同 同

（四十三）同 同

（四十四）同 同

（四十五）同 同

（四十六）同 同

（四十七）同 同

（四十八）同 同

（四十九）同 同

（五十）同 同

（五十一）同 同

（五十二）同 同

（五十三）同 同

（五十四）同 同

（五十五）同 同

（五十六）同 同

（五十七）同 同

（五十八）同 同

（五十九）同 同

（六十）同 同

（六十一）同 同

（六十二）同 同

（六十三）同 同

（六十四）同 同

（六十五）同 同

（六十六）同 同

（六十七）同 同

（六十八）同 同

（六十九）同 同

（七十）同 同

（七十一）同 同

（七十二）同 同

（七十三）同 同

（七十四）同 同

（七十五）同 同

（七十六）同 同

（七十七）同 同

（七十八）同 同

（七十九）同 同

（八十）同 同

（八十一）同 同

（八十二）同 同

（八十三）同 同

（八十四）同 同

（八十五）同 同

（八十六）同 同

（八十七）同 同

（八十八）同 同

（八十九）同 同

（九十）同 同

（九十一）同 同

（九十二）同 同

（九十三）同 同

（九十四）同 同

（九十五）同 同

（九十六）同 同

（九十七）同 同

（九十八）同 同

（九十九）同 同

（一百）同 同

（一百零一）同 同

（一百零二）同 同

（一百零三）同 同

（一百零四）同 同

（一百零五）同 同

（一百零六）同 同

（一百零七）同 同

（一百零八）同 同

（一百零九）同 同

（一百一〇）同 同

（一百一一）同 同

（一百一二）同 同

（一百一三）同 同

（一百一四）同 同

（一百一五）同 同

（一百一六）同 同

（一百一七）同 同

（一百一八）同 同

（一百一九）同 同

（一百二十）同 同

（一百二十一）同 同

（一百二十二）同 同

（一百二十三）同 同

（一百二十四）同 同

（一百二十五）同 同

（一百二十六）同 同

（一百二十七）同 同

（一百二十八）同 同

（一百二十九）同 同

（一百三十）同 同

